

掛川市立総合病院・看護部教育委員会

# nurse cap ナースキャップ

教育だより  
No.38

平成15年12月19日

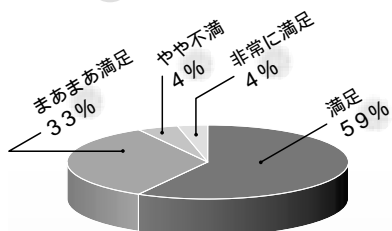
実際に聴診してみましょう



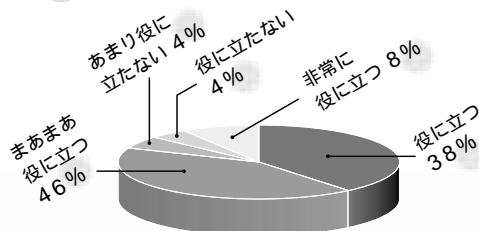
## フィジカルアセスメント

研修振り返り集計結果(回収24名)

研修全体について



この研修で体験、理解したことは？



聖隷クリストファー看護大学講師  
坂田五月氏

フィジカルアセスメントは医師が主に行うようなことだと感じていたが、患者のそばにいる看護師にこそ必要な技術、知識である。全身隅々まで見るとむずかしく考えていたが、一つの注目する点から全身を見ればよいとわかった。フィジカルの研修一歩前進です。

(松下)

解剖生理の学習が必要である正常がわかっていないと異常がわからない  
フィジカルアセスメントは医師が主に行うようなことだと感じていたが、患者のそばにいる看護師にこそ必要な技術、知識である。全身隅々まで見るとむずかしく考えていたが、一つの注目する点から全身を見ればよいとわかった。フィジカルの研修一歩前進です。

アンケート結果として以下の事が多く書かれていました。

### 研修の資料より



マックバーネー点・ランツ点  
マッケンジー徴候

フィジカルアセスメントの講演会が8月27日、9月4日にありました。内容は呼吸・循環・腹部・感覚についてです。この講演会のアンケート結果をみてわかるように、フィジカルの技法・打診・触診の必要性がくわしく説明されました。

# 看護記録研修



2西 瀬崎 忍

今回の講演では実際に電子カルテを導入している島田市民病院の副看護部長の話を聞きました。電子カルテとは、からはじまり導入までの過程、どの様にして活用しているか、看護記録の方法など実際にやっていることを聞くことができました。

電子カルテでいいなと思ったことはいろいろ情報画面を開けば全てわかるということです。医師記録も入力されており、しかも日本語での入力が原則になっている様で私達にも理解しやすいと感じました。

その他にいいと思ったことは、看護診断、NIC(看護介入分類)、NOC(看護成果分類)を使用しているということです。NIC、

NOCという言葉は初めて聞きました。これを使うとケアも統一され誰が行ってもわかりやすく、又、評価していくうえでも、5段階評価で内容も細かく個々の差がなく評価できると思いました。もう少しNIC、NOCについて知りた

いと思います。そして、患者様に統一、継続した看護ができればいいと感じました。

近い将来、電子カルテが導入される時がくるかもしれません。期待する部分も大きいけど大変そうだなという思いもあります。



H15.9.13

## パートナーズ研修

### 看護業務として必要な

### 記録に取り組む



小児科外来 岩崎由起子

今回、日々の看護記録について、各科スタッフの方との研修に一年間参加させて頂きました。6月の時点でのグループワーク(G・W)では、各科の記録の取り組み等を発表しあい、問題点や気づきなどの意見を出しあいました。11月のG・Wでは、前回からの問題点に基づき、変更した記録内容、及び現状を報告しあいました。

G・Wでは、各科の「特色」に応じて、記録している様子がわかり、又問題点があれば、各科で対処し変更して、継続記録に取り組んでいる様子がありません。

日々、処置などの看護記録は業務の流れの中で記入していましたが、フォーカスやデータをあげ、発表された看護記録は、時間の制約もあり、なかなか難しいものがありました。今回一年間の研修を通して、看護記録に取り組むことにより、患者理解、家族理解へ繋がり、よりよい看護、



援助にも繋がっていくと感じました。又、他科の取り組みについても、自科で生かせそうな部分もあり、参考になりました。有意義な研修であったと思います。記録するという意識づけができた点も収穫ではないでしょうか。

ちょっとホットするはなし

# たまらない魅力

# バスケットボール



5西 下嶋里沙

私は小学四年生の時からバスケットボールをやっています。中学・高校と部活動に専念し、社会人となった今では、掛川と袋井にあるバスケットボールチームの練習に週一回から三回参加しています。年齢層はさまざまで、中学生〜五十代の方まで幅広くいます。そのためいろんな人とコミュニケーションがはかれ、良い刺激となつています。男性の中に混って練習するため、シュートカットをされない位置でチャンスをつねらったり、フェイクをつかってみたりと試行錯誤しながら練習をしています。十一月には、女子チームを結成し、大東町の一般大会に出場する予定です。

ボールを追いかけっていると夢中になり嫌な事も忘れてしまいます。汗をかくと仕事後の足のむくみも良くなります。仲間と大好きなバスケットをして笑っている時はきつとストレス発散につながっているんだらうなと

思います。バスケットを通して精神的に学んだ事も多くあるように思います。今後、自分を高めていくためにも、いろいろな分野に興味を持ち、充実した毎日を送れるようになりたいな、と思います。



友人と練習、中央が私です

## 六病院バレーボール大会

### 優勝おめでとう!!



H15.9.13



新人研修 救命救急法

H15.9.9

# どぴっくす

## 東京女子医大看護学部見学実習



H15.11.11

おかげん  
いかがですか?

## 編集後記

月日の過ぎるのは早いものです。平成15年も終わろうとしています。昭和59年に新病院が設立され、7146人の赤ちゃんが生まれ、退院していったこの病院の産婦人科の新生児室。業務縮小という現実が訪れ、灯が消えました。こんな日が来ようとは想像もしていませんでした。

またかわいい赤ちゃんの顔が見られる日が待ち遠しいですね。

(松下)

# 全国研究集会で発表

## 『外来固定チームナーシングの導入』



外来 西村容子

9月8日、私は、固定チームナーシング全国研究集会に参加しました。「全国集会」への参加は2回目ですが、今回は私たち外来で導入した固定チームナーシングについて発表することになりました。外来では、平成12年から勉強を始め、平成13年に外来固定チームナーシングの組織づくりや概要の成文化等に取り組みました。外来スタッフの多さ、各科の業務が多種多様であるため試行錯誤して平

成14年に導入しました。

分科会での私たちの発表は、会場がほぼ埋まるくらいに参加者があり緊張しました。

他病院の発表を聞き、思ったことはこの外来でも似たような問題を抱えているということでした。

今、外来における看護ニーズは量的にも質的にも増加しています。

今までの各外来の枠をはずした応援体制を整える必要があります。

応援体制について日替りチームリーダー制や他科への一ヶ月の研修などの取り組みが発表されました。

今年度は私たちも応援体制について目標を掲げています。今回の発表会で得た事を活用していきます。



# 看護を振り返る会

## 上野桂子氏の講演を聞いて 外来 岡山優子



H15.9.27

去る10月24日、在宅看護に向けての患者・家族の想い」と題し、訪問看護の歴史や目的、現状について

の講演を聞くことができました。

高齢社会において、慢性疾患や寝たきり、痴呆老人の占める割合が多く、医療費の膨張、社会的入院等の問題から介護保険制度が導入され、在宅看護の必要性が問われる中、とても興味深く聞く事

ができました。

振り返れば看護職として当然のごとく、退院時には、退院指導をしてきましたが、今回の講演を聞いて、「今まで行ってきた看護は、それで良かったの？」と問われているようで、改めて考えさせられました。それは、患者様が退院して帰られる家での状況がどうなっているのか？ 住む環境はどうか？ 常に見守ってくれる人がいるのか？ など充分考えていたのだろうか？ ただ病気に対するケアを中心に、病院で行っているやり方を押しつけて指導してきたのではなかったか。ふみ込んだ指導をやっているつもりでも十分できていなかったのではなかったかと、反省するばかりです。

今後はそれぞれの家族に合った療養のし方や、看護方法を尊重し、在宅看護が患者様の生活の基盤をくずさない様、看護の専門家の立場から、支えていく事が大切だと思えました。